

標 題	宍道湖西岸地区大区画ほ場整備に係る営農支援活動報告その5 ～小豆の中耕培土実演会の開催！除草効果は良好！！～
-----	---

(ダイジェスト)

宍道湖西岸地区における大区画化ほ場整備後の高収益な土地利用型作物の1つとして位置づけられている「小豆」の省力機械化体系の確立に向け、今年から新たに農研機構の協力のもと中耕培土の実演を行いました。

残された課題である「雑草対策」において除草効果は概ね良好の一方、いくつか課題も見つかり、今後関係機関等と検討を行っていくこととしています。

宍道湖西岸地区では、「小豆」をほ場整備後の土地利用型高収益作物の1つとして位置づけ、省力機械体系による安定的な収量・品質の確保を目指しています。

H28年度から実証栽培を行ってきた中で残された課題である「雑草対策」及び「湿害対策」を解決するため、農研機構の協力のもと、8月26日に中耕培土の実演を行いました。

これまで行ってきた栽培体系では、播種直後～播種約10日後までの除草剤による雑草防除が重要となるため、防除に失敗した場合は手取り除草をしなければならないというリスクがあります。このことから、今回新たに実証した「畝立播種」と「播種3週間後の中耕培土」を併せた体系では、通常、除草剤での防除が困難になるまで成長した雑草に対しても除草が可能となります。

一方、天候等の影響で、中耕培土作業が遅れている間に小豆の草丈が大きくなり作物を傷つけてしまったり、土壌水分が多いことにより培土の高さが高くなり倒伏に繋がるなど、課題も残りました。今後は技術導入に向け、作業効率性や収益性等を含めて関係機関等と検討していきます。

【実演会の様子】



【下表：小豆除草体系の比較】

	播種	播種10日後頃まで	播種2～3週間後	
慣行栽培	 密条播種	 雑草防除	除草なし	 収穫
畝立播種 ＋ 中耕培土 体系	 畝立播種		中耕培土	除草なし

【中耕培土による除草効果】



中耕培土前



中耕培土後

【今後の課題】



中耕培土による小豆の倒伏